

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 668 号	氏名	浦辺 郁也
学位審査委員	主 査	畑山 範	
	副 査	尾野村 治	
	副 査	田中 正一	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、ホスホリパーゼ A2 活性と特異な化学構造をもつことで医薬開発の観点から注目を集めているシナトリン天然物の中からシナトリン C₁ を合成標的として取り上げ、この種の天然物の効率的な一般合成法を開発しようとしたものである。また、本研究は、天然物合成の過程で見出した新反応を新たなテトラヒドロフラン合成法として確立しようとしたものである。以上の点から、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 本合成研究をとおして、インジウム(III)触媒 Conia-エン反応を利用したテトラヒドロフラン構築、ラクトン化を伴うジヒドロキシ化、Wittig 反応による側鎖の伸長等からなる効率的な合成法を開発し、シナトリン C₁ の全合成を達成した。さらに、その過程で、ロジウム(II)触媒と亜鉛(II)触媒共存下、ホモプロパルギルアルコールとジアゾジカルボニル化合物が形式的 [4+1]-環化付加反応を起こすことを見出し、テトラヒドロフラン誘導体の新規合成法を開発した。よって、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で合成研究を行った結果、シナトリン C₁ の全合成に成功し、今後のシナトリン天然物に基づく医薬開発研究への進展が大いに期待される。さらに、新たなテトラヒドロフラン誘導体の簡便合成法を開発し、今後の有機合成化学ならびに創薬化学への貢献が期待される。</p> <p>以上のように本論文は薬学の有機合成研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（薬学）の学位に値するものと判断した。</p>			